

月日	入院日(/ /)	術前日(/ /)	手術日(/ /)		術翌日(/ /)	術後2日~3日目	術後5~10日目	退院日
			術前	術後				
経過	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。術前準備を行います	()時に手術室へ移動します	術後は病室にもどります	水分開始になります	食事開始になります		退院
目標	発熱がない入院生活について理解できる	術前日の流れ	手術室へ行くまでの流れ		ベッド上でも、できるだけ動けるようにしましょう。日常生活もリハビリの一部です。	安全にリハビリをすすめましょう。食事の摂取方法を覚えましょう	安全に、日常生活のリズムを戻していきましょう	
検査	手術に必要な検査をします	<input type="checkbox"/> おへその掃除をします <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 肩に名前を書きます(医師)	<input type="checkbox"/> 麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください <input type="checkbox"/> 前あきの下着、病院のジャマに着替えてください <input type="checkbox"/> 弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します) <input type="checkbox"/> 義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。 <input type="checkbox"/> 貴重品は、ご家族の方へお渡してください <input type="checkbox"/> 女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。 <input type="checkbox"/> 髪の高い方は2つに結び、ヘアピンは外してください	手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します	採血レントゲン(お部屋でとります)	必要に応じて採血レントゲン		
処置	処置はありません	<input type="checkbox"/> 点滴 <input type="checkbox"/> 14時 下剤の服用 <input type="checkbox"/> 手術の準備品の確認 <input type="checkbox"/> 21時 下剤の服用 心配なときは、ポータルトイレを用意します	点滴 薬液吸入 点滴 点滴	痛み時は我慢せずに言って下さい 点滴 薬液吸入	酸素が終了します 心電図モニターを外れます 鼻から入っている管が抜けます 尿管が抜けます	痛み止めの管が抜けます 創部の管が抜けます	点滴が終了します	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。 定期受診は忘れずに行なうようにしましょう。
注射	注射はありません							
内服	薬剤師と看護師が、内服薬を確認します				立ちましよう 足踏みましよう	薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。経下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。	次の受診日まで必要な分のお薬が処方されます 職場復帰、旅行などは、医師に相談して下さい	
食事	手術前日まで、食事制限はありません	月 日 時~絶食 月 日 時~絶飲食				初めて歩行する時は、看護師が付き添います 術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります		
清潔行動	活動、入浴に制限はありません		病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。 足の指背屈運動を行って下さい 血栓予防になります つま先を足の方向へ上げる つま先を伸ばす		シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。	食事を摂取しない間も、口の中は清潔にしましょう 食事は、食べ過ぎないように注意してください。よく噛んで食べて下さい	シャワーの時は、きずの部分をこすらずに、シャワーで流すようにしましょう 入浴のときは... 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。	
説明	病棟での日常生活を説明します 手術の予定を説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります			鼻の管が抜けたら、水分摂取が可能になります 最初は、ジュースや牛乳ではなく、水やお茶をおすすめします		口次回予約薬が渡されます 口リハビリを外します	
腸の手術方を受けられ	スーフル呼吸訓練を行ってください		腸には、食品の栄養分が吸収された後の残渣物から水分を吸収し、便を作る働きがあります。手術によって腸が短くなり、腸の中に残渣物が留まる時間が短くなったため、下痢に傾いたり便秘に傾いたり、排便の調節が難しくなっています。 また、いままでも使用していなかった腸を使うため、下痢に傾くことが多いです。	食事について... 偏食を避け、バランスのとれた食事を心がけて下さい。以下の食べ物は、控えるかよく噛んで食べて下さい。 ・熱すぎたり、冷たすぎたりする食べ物 ・刺激の強い食べ物... 香辛料・わさびなど ・消化の悪い食べ物... イカ・たこ・するめ・キノコ類・海藻類など その他 ・下痢になりやすい食べ物... 冷たい牛乳・天ぷら類・アルコール・アイスクリームなど	便秘のときは... ・腹部「の」の字を描くようにマッサージする。 ・水分を多めにとり、食物繊維の多い食品をとる。 食物繊維の多い食品... パン・玄米・豆・芋類・果物・バナナなど ・下剤の乱用は慎む。	下痢になったときは... ・腹部の保温(腹巻き・ほっかいろう使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給する ・暖かい消化の良い食べ物を摂取する。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすかった食べ物は、術後も控える。 ・下痢止めの薬の乱用は慎む ・下痢がひどすぎて、肛門部がヒリヒリする場合は、スタッフに御相談下さい。		

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。

注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。

特別な栄養管理の必要性
 有 . 無

上記内容について説明を受け同意いたしました

署名: _____ 続柄: _____